

令和6年度 熊本市立寺井小学校 学校評価(前期)

項目	具体的方策	評価指標	＜評価の根拠＞ 達成度判断基準	教職員アンケート	児童アンケート	保護者アンケート	取組状況	評価	今後の改善点と具体的方策	
1 組織的な 学校運営	①【組織的な学校運営】 主任等を中心とした各組織が PDCAサイクルを機能させ、共通 理解、共通行動で教育活動を進 める。	学年会やチーム会で、取 り組みの反省を生かし、情 報共有や指導の統一が できている。	＜実施状況・アン ケートの状況＞ A: +評価90%～ B:80%～ C:70%～ D:70%未満	学年会やチーム会 で、取り組みの反省 を生かし、情報共有 や指導の統一がで きている。 (A36%,B60%,C4%)			毎週の職員研修を利用 して、教職員間で情報共有 の機会を確保している。	B	2週間に1回、学年会を予定 して組み込み、学年会で定 期的に計画や改善点を話し合 うようにする。また、学年 会での内容を報告、交流し 、共有を図る。	
	②【いじめ・不登校等の未然防 止】 日々の情報共有・連絡・相 談を適切に行い、いじめや不登 校等の課題に迅速・適切に対応 し、安全・安心な学校づくりを する。	いじめ等記録シートで 報告し、組織的に迅速に 対応する。 「ひだまり教室等」を活用 して、不登校傾向の児童 に継続的に関わることで ある。	＜実施状況・アン ケートの状況＞ A: +評価90%～ B:80%～ C:70%～ D:70%未満	いじめ等記録シート で報告し、組織的に 迅速に対応している。 (A80%,B16%,C4%) 「ひだまり教室等」を 活用して、不登校傾向 の児童に継続的に関 わることである。 (6%,28%,66%)				いじめ等記録シート で報告し、組織的に 迅速に対応している。 また、学年会やチーム 会での内容を報告、交 流し、共有を図る。 また、学年会やチーム 会での内容を報告、交 流し、共有を図る。	A	いじめ等記録シートで 報告し、組織的に速 速に対応している。 また、学年会やチ ーム会での内容を報 告、交流し、共有 を図る。また、学 年会やチーム会 での内容を報告、交 流し、共有を図る。
	③【業務改善・働き方改革の推 進】 教科担任制やICTの効果的な活 用、学年会やチーム会を通して組 織としての指導の充実を図り、業 務改善・働き方改革を推進する。	時間外勤務時間が 2か月連続で80時間 を超える教職員数 ゼロを目指す。	＜勤務時間集計＞ A:ゼロ B:1～2人 C:3～4人 D:5人以上	2か月連続で80時 間を超える教職員 (0人)				4月は80時間超えが3人 いたが、以降は0人だ った。	A	2か月連続で80時間 を超える教職員数 ゼロを目指す。
2 知（進ん で学ぶ子 ）	①【情報収集する力の育 成】 児童が探究サイクルを回すこ とができる授業を構想し、一 人ひとりの学び力を実 に見取り、情報収集する力 を全教科横断的に育成して いく。	総合・生活科を中心 に「授業」に主体的に取 り組んでいく。「学ぶこと が楽しい。」と感じている 児童の割合	＜(教・児アンケート) A:90%～ B:80%～ C:70%～ D:70%未満	総合・生活科を中心 に、児童主体の単 元構想をしている。 (A13%,B69%,C17%, D16%)			校内研修・運営委員会 を通して、生活・総合 に児童が探究する単 元構想が見え、実 践の共有を図る。 見取りについては共有 が十分に行われてい ない。2学期で取り上 げたい。	B	校内研修・運営委員 会を通して、生活・ 総合に児童が探究 する単元構想が見 え、実践の共有を 図る。見取りにつ いては共有が十分 に行われていない。 2学期で取り上げ たい。	
	②【論理的に考え、伝える 力を高める】 言語技術の型を示し、教育 活動の中でアウトプットする 場面を設定し、活用を価値 づけ、論理的に考え、伝え る力を高める。	3つの接続詞を用いて学 習のふりかえりをするこ とができる児童の割合	単元末におけるふり かえり3つの接続 詞を用いて書け る児童の割合 A:90%～ B:80%～ C:70%～ D:70%未満	3つの接続詞を用い てふりかえりを書 ける児童の割合 (A44.3%,B17%,C16.5%, D22.2%) 「3つの接続詞を 使って、自分の考 えを話したり、書 いたりする。」 (A46.9%,B38%,C11.3%, D2.9%)			「引き続き、R80や書 くトレーニングで「つな げる」「つなげる」 接続詞を使って自分の 考えを話したり、書 いたりする。日々の 授業の中で自分の考 えを話したり、書 いたりする。児童自 身が活用している 場面を設定し、活用 を価値づける。低 学年については、「な なな」を使って自分 の考えを話したり、 書いたりする。中 高学年については、 「なぜ」「どうして」 で振り返り、指導 改善を図る。	C	「引き続き、R80や 書くトレーニングで 「つなげる」「つな げる」接続詞を使 って自分の考えを 話したり、書いたり する。日々の授業 の中で自分の考え を話したり、書い たりする。児童自 身が活用している 場面を設定し、活 用を価値づける。 低学年については、 「ななな」を使っ て自分の考えを話 したり、書いたり する。中高学年に ついては、「なぜ」「 どうして」で振り返 り、指導改善を 図る。	
	③【主体的・対話的で深い 学びの実現】 ICTの効果的な活用による個別 最適化や主体的な学びの一体 的な充実を図り、主体的・対話 的で深い学びの実現を目指す。	情報収集したり、表 現したりする場面 で活用している児童 の割合	＜(教・児アンケート) A:90%～ B:80%～ C:70%～ D:70%未満	情報収集したり、表 現したりする場面 で活用している。 (A52%,B40%,C44%, D4%)				本校においては学習 ツールとしての端末 の活用が広がって いる。インターネット 検索や写真撮影・ア ナログの作成に代 表される情報収集 ツールとして、だ けでなく、整理分 析・表現などの場 面でも活用した 授業が全学年で 実施されている。	A	情報収集したり、表 現したりする場面 で活用している。 本校においては学 習ツールとしての 端末の活用が広が っている。ネット ワーク検索や写真 撮影・アナログの 作成に代表される 情報収集ツールと して、だけでなく、 整理分析・表現 などの場面でも 活用した授業が 全学年で実施さ れている。
3 体（思い やりのあ る子）	①【生徒指導の4つの視点 を生徒指導の4つの視点を生か した教育活動を行い、児童の自 己達成感や自己有用感を高め、 一人ひとりが安心して学 び、活用を価値づけるこ とができるようになる。】	「チェックシート」教 職員アンケートで自己 存在感（褒め・認める）の 項目で肯定的評価が つく割合 「自分が楽しい」に 当てはまる児童の割合	＜(教・児・保アンケート) A:90%～ B:80%～ C:70%～ D:70%未満	児童を褒める認める 言葉がけを意図し て行っている。 (A76%,B24%) また、ていっ子の 足踏の活動を 通じて、学級の成長 や良さを認める。 【担任】A30%,B70%			月末の生徒指導の4つ の視点の肯定的評価 が、教育活動の中で 認められる児童の 割合を増やしてい く。児童が安心して 学べるようにしてい く。【担任】A30%, B70%	A	「チェックシート」 教職員アンケート で自己存在感（褒 め・認める）の項 目で肯定的評価 がつかない児童の 割合を増やしてい く。児童が安心して 学べるようにして いく。【担任】A30%, B70%	
	②【親和的な集団づくり】 進んであそぶことと温かな 言葉・反応を大切にし、親和 的な集団づくりを支援する。	「自分が気持ちのよい と思えるあそび」に 当てはまる児童の割合 「自分が気持ちのよい と思えるあそび」に 当てはまる児童の割合	＜(教・児・保アンケート) A:90%～ B:80%～ C:70%～ D:70%未満	教師自身が気持ちの よいと思えるあそび を行っている。【担 任】A55%,B44%, D11% 「自分が気持ちのよ いと思えるあそび」 に当てはまる児童 の割合を増やしてい く。【担任】A55%, B44%,C11%			児童会を中心に「あ そび」の活動を行 っている。【担任】 A55%,B44%,C11% 「自分が気持ちのよ いと思えるあそび」 に当てはまる児童 の割合を増やしてい く。【担任】A55%, B44%,C11%	B	「自分が気持ちのよ いと思えるあそび」 に当てはまる児童 の割合を増やしてい く。【担任】A55%, B44%,C11%	
	③【主体的・対話的で深い 学びの実現】 ICTの効果的な活用による個別 最適化や主体的な学びの一体 的な充実を図り、主体的・対話 的で深い学びの実現を目指す。	情報収集したり、表 現したりする場面 で活用している児童 の割合	＜(教・児・保アンケート) A:90%～ B:80%～ C:70%～ D:70%未満	情報収集したり、表 現したりする場面 で活用している。 (A52%,B40%,C44%, D4%)				本校においては学習 ツールとしての端末 の活用が広がって いる。インターネット 検索や写真撮影・ア ナログの作成に代 表される情報収集 ツールとして、だ けでなく、整理分 析・表現などの場 面でも活用した 授業が全学年で 実施されている。	A	情報収集したり、表 現したりする場面 で活用している。 本校においては学 習ツールとしての 端末の活用が広が っている。ネット ワーク検索や写真 撮影・アナログの 作成に代表される 情報収集ツールと して、だけでなく、 整理分析・表現 などの場面でも 活用した授業が 全学年で実施さ れている。
4 体（より よく生き る子）	①【自分の命・健康を自分で 守る】 自分の生活を振り返り、自 身の命・健康を自分で守 る力を取り組むこと ができるようになる。	「感染症や熱中症を予 防しよう」と考えて 行動している児童の 割合	＜(教・児・保アンケート) A:90%～ B:80%～ C:70%～ D:65%未満	感染症や熱中症を 予防するための行 動を自分で考えて いる。【担任】 A61.9%,B38.1%, D0%			熱中症予防については、 児童が自分の命を 守る力を取り組む ことができるように している。【担任】 A61.9%,B38.1%, D0%	A	「感染症や熱中症を 予防しよう」と考 えて行動している 児童の割合を増や していく。【担任】 A61.9%,B38.1%, D0%	
	②【目標を持って運動に取 り組む】 運動の楽しさや喜びを味わ い、考えたり工夫したりし ながら、運動の課題を解 決する体育科の授業を 行う。	「体育科の授業は楽し い」と感じる児童の割合	＜(教・児・保アンケート) A:90%～ B:80%～ C:70%～ D:65%未満	児童自らが課題を 設定し、体力・技能 の向上や課題解決 ができるような体 育科の授業を行っ ている。【担任】 A20%,B60%,C20%			体力テストをデジタル 化したことで、児童 が自分の体力・技能 の向上や課題解決 ができるような体 育科の授業を行っ ている。【担任】 A20%,B60%,C20%	B	「体育科の授業は 楽しい」と感じる 児童の割合を増や していく。【担任】 A20%,B60%,C20%	
	③【PTAや学校運営協議会 との連携】 PTAや学校運営協議会と 連携を高め、保護者や地 域の力を生かした教育 活動を充実させる。	＜(保・教アンケート) A: +評価90%～ B:80%～ C:70%～ D:70%未満	読書ボランティアの 読み聞かせ・学習サ ポート等、学校は、地 域や保護者の力を 生かして教育活動 を行っている。 (A84%,B16%)				読書ボランティアの 読み聞かせ、計 画学習や家庭学習 のサポート等、地 域や保護者の力 を生かして教育活 動を行っている。 (A84%,B16%)	A	読書ボランティアの 読み聞かせ・学習 サポート等、学校 は、地域や保護 者の力を生かして 教育活動を行っ ている。【担任】 A84%,B16%	
5 家庭・地 域との連 携協働	①【開かれた学校づくり】 家庭や地域に学校教育活 動の様子を発信し、信頼さ れる学校づくりを進 める。	＜(保・教アンケート) A: +評価90%～ B:80%～ C:70%～ D:70%未満	学校は、紙でのお便 りの他、ホームページ やドコモ、クロ ームブックを使っ て、学校のことを保 護者に伝えている。 (A40%,B56%,C26%, D11%)				見守り隊の方へ配布 した下校時刻に児童 が知らない児童が 多かった。【担任】 A40%,B56%,C26%, D11%	B	見守り隊の方へ配 布した下校時刻に 児童が知らない 児童が多かった。 【担任】A40%, B56%,C26%,D11%	
	②【開かれた学校づくり】 家庭や地域に学校教育活 動の様子を発信し、信頼さ れる学校づくりを進 める。	＜(保・教アンケート) A: +評価90%～ B:80%～ C:70%～ D:70%未満	学校は、紙でのお便 りの他、ホームページ やドコモ、クロ ームブックを使っ て、学校のことを保 護者に伝えている。 (A40%,B56%,C26%, D11%)				見守り隊の方へ配布 した下校時刻に児童 が知らない児童が 多かった。【担任】 A40%,B56%,C26%, D11%	B	見守り隊の方へ配 布した下校時刻に 児童が知らない 児童が多かった。 【担任】A40%, B56%,C26%,D11%	
	③【開かれた学校づくり】 家庭や地域に学校教育活 動の様子を発信し、信頼さ れる学校づくりを進 める。	＜(保・教アンケート) A: +評価90%～ B:80%～ C:70%～ D:70%未満	学校は、紙でのお便 りの他、ホームページ やドコモ、クロ ームブックを使っ て、学校のことを保 護者に伝えている。 (A40%,B56%,C26%, D11%)				見守り隊の方へ配布 した下校時刻に児童 が知らない児童が 多かった。【担任】 A40%,B56%,C26%, D11%	B	見守り隊の方へ配 布した下校時刻に 児童が知らない 児童が多かった。 【担任】A40%, B56%,C26%,D11%	

令和6年度 熊本市立寺井小学校 学校評価(後期)

項目	具体的方策	評価指標	＜評価の根拠＞ 達成度判断基準	教職員アンケート	児童アンケート	保護者アンケート	取組状況	評価	今後の改善点と具体的方策
1 組織的な 学校運営	①【組織的な学校運営】 主任等を中心とした各組織が PDCAサイクルを機能させ、共通 理解、共通行動で教育活動を進 める。	学年会やチーム会で、取 り組みの反省を生かし、情 報共有や指導の統一が できている。	＜実施状況・アン ケートの状況＞ A: +評価90%～ B:80%～ C:70%～ D:70%未満	学年会やチーム会 で、取り組みの反省 を生かし、情報共有 や指導の統一がで きている。 (A38%,B57.1%,C4, 8%)			定期的な学年会や1ヶ月先 までの地域学習や外部講師 の予定を話し合うように なり、各学年の予定を運営 委員会で共有することが できた。	B	定期的な学年会や1 ヶ月先までの地域 学習や外部講師の 予定を話し合うよ うになり、各学年 の予定を運営委員 会で共有することが できた。
	②【いじめ・不登校等の未然防 止】 日々の情報共有・連絡・相 談を適切に行い、いじめや不登 校等の課題に迅速・適切に対応 し、安全・安心な学校づくりを する。	いじめ等記録シートで 報告し、組織的に迅速に 対応する。 「ひだまり教室等」を活用 して、不登校傾向の児童 に継続的に関わることで ある。	＜実施状況・アン ケートの状況＞ A: +評価90%～ B:80%～ C:70%～ D:70%未満	いじめ等記録シート で報告し、組織的に 迅速に対応している。 (A76.2%,B23.8%) 「ひだまり教室等」を 活用して、不登校傾向 の児童に継続的に関 わることである。 (A81.9%,B18.1%)			いじめ等記録シート で報告し、組織的に 迅速に対応している。 また、学年会やチ ーム会での内容を報 告、交流し、共有 を図る。また、学 年会やチーム会 での内容を報告、交 流し、共有を図る。	A	いじめ等記録シート で報告し、組織的に 迅速に対応してい る。また、学年会 やチーム会での内 容を報告、交流し 、共有を図る。ま た、学年会やチ ーム会での内容を 報告、交流し、共 有を図る。
	③【業務改善・働き方改革の推 進】 教科担任制やICTの効果的な活 用、学年会やチーム会を通して組 織としての指導の充実を図り、業 務改善・働き方改革を推進する。	時間外勤務時間が 2か月連続で80時間 を超える教職員数 ゼロを目指す。	＜勤務時間集計＞ A:ゼロ B:1～2人 C:3～4人 D:5人以上	2か月連続で80時 間を超える教職員 (0人)				4月は80時間超えが3人 いたが、以降は0人だ った。	A
2 知（進ん で学ぶ子 ）	①【情報収集する力の育 成】 児童が探究サイクルを回すこ とができる授業を構想し、一 人ひとりの学び力を実 に見取り、情報収集する力 を全教科横断的に育成して いく。	総合・生活科を中心 に「授業」に主体的に取 り組んでいく。「学ぶこと が楽しい。」と感じている 児童の割合	＜(教・児アンケート) A:90%～ B:80%～ C:70%～ D:70%未満	総合・生活科を中心 に、児童主体の単 元構想をしている。 (A13%,B69%,C17%, D16%)			校内研修・運営委員会 を通して、生活・総合 に児童が探究する単 元構想が見え、実 践の共有を図る。 見取りについては共有 が十分に行われてい ない。2学期で取り上 げたい。	B	校内研修・運営委員 会を通して、生活・ 総合に児童が探究 する単元構想が見 え、実践の共有を 図る。見取りにつ いては共有が十分 に行われていない。 2学期で取り上げ たい。
	②【論理的に考え、伝える 力を高める】 言語技術の型を示し、教育 活動の中でアウトプットする 場面を設定し、活用を価値 づけ、論理的に考え、伝え る力を高める。	3つの接続詞を用いて学 習のふりかえりをするこ とができる児童の割合	単元末におけるふり かえり3つの接続 詞を用いて書け る児童の割合 A:90%～ B:80%～ C:70%～ D:70%未満	3つの接続詞を用い てふりかえりを書 ける児童の割合 (A44.3%,B17%,C16.5%, D22.2%) 「3つの接続詞を 使って、自分の考 えを話したり、書 いたりする。」 (A46.9%,B38%,C11.3%, D2.9%)			「引き続き、R80や書 くトレーニングで「つな げる」「つなげる」 接続詞を使って自分の 考えを話したり、書 いたりする。日々の 授業の中で自分の考 えを話したり、書 いたりする。児童自 身が活用している 場面を設定し、活用 を価値づける。低 学年については、「な なな」を使って自分 の考えを話したり、 書いたりする。中 高学年については、 「なぜ」「どうして」 で振り返り、指導 改善を図る。	C	「引き続き、R80や 書くトレーニングで 「つなげる」「つな げる」接続詞を使 って自分の考えを 話したり、書いたり する。日々の授業 の中で自分の考え を話したり、書い たりする。児童自 身が活用している 場面を設定し、活 用を価値づける。 低学年については、 「ななな」を使っ て自分の考えを話 したり、書いたり する。中高学年に ついては、「なぜ」「 どうして」で振り返 り、指導改善を 図る。
	③【主体的・対話的で深い 学びの実現】 ICTの効果的な活用による個別 最適化や主体的な学びの一体 的な充実を図り、主体的・対話 的で深い学びの実現を目指す。	情報収集したり、表 現したりする場面 で活用している児童 の割合	＜(教・児・保アンケート) A:90%～ B:80%～ C:70%～ D:70%未満	情報収集したり、表 現したりする場面 で活用している。 (A52%,B40%,C44%, D4%)				本校においては学習 ツールとしての端末 の活用が広がって いる。インターネット 検索や写真撮影・ア ナログの作成に代 表される情報収集 ツールとして、だ けでなく、整理分 析・表現などの場 面でも活用した 授業が全学年で 実施されている。	A
3 体（思い やりのあ る子）	①【生徒指導の4つの視点 を生徒指導の4つの視点を生か した教育活動を行い、児童の自 己達成感や自己有用感を高め、 一人ひとりが安心して学 び、活用を価値づけるこ とができるようになる。】	「チェックシート」教 職員アンケートで自己 存在感（褒め・認める）の 項目で肯定的評価が つく割合 「自分が楽しい」に 当てはまる児童の割合	＜(教・児・保アンケート) A:90%～ B:80%～ C:70%～ D:70%未満	児童を褒める認める 言葉がけを意図し て行っている。 (A76%,B24%) また、ていっ子の 足踏の活動を 通じて、学級の成長 や良さを認める。 【担任】A30%,B70%			月末の生徒指導の4つ の視点の肯定的評価 が、教育活動の中で 認められる児童の 割合を増やしてい く。児童が安心して 学べるようにしてい く。【担任】A30%, B70%	A	「チェックシート」 教職員アンケート で自己存在感（褒 め・認める）の項 目で肯定的評価 がつかない児童の 割合を増やしてい く。児童が安心して 学べるようにして いく。【担任】A30%, B70%
	②【親和的な集団づくり】 進んであそぶことと温かな 言葉・反応を大切にし、親和 的な集団づくりを支援する。	「自分が気持ちのよい と思えるあそび」に 当てはまる児童の割合 「自分が気持ちのよい と思えるあそび」に 当てはまる児童の割合	＜(教・児・保アンケート) A:90%～ B:80%～ C:70%～ D:70%未満	教師自身が気持ちの よいと思えるあそび を行っている。【担 任】A55%,B44%, D11% 「自分が気持ちのよ いと思えるあそび」 に当てはまる児童 の割合を増やしてい く。【担任】A55%, B44%,C11%			児童会を中心に「あ そび」の活動を行 っている。【担任】 A55%,B44%,C11% 「自分が気持ちのよ いと思えるあそび」 に当てはまる児童 の割合を増やしてい く。【担任】A55%, B44%,C11%	B	「自分が気持ちのよ いと思えるあそび」 に当てはまる児童 の割合を増やしてい く。【担任】A55%, B44%,C11%
	③【主体的・対話的で深い 学びの実現】 ICTの効果的な活用による個別 最適化や主体的な学びの一体 的な充実を図り、主体的・対話 的で深い学びの実現を目指す。	情報収集したり、表 現したりする場面 で活用している児童 の割合	＜(教・児・保アンケート) A:90%～ B:80%～ C:70%～ D:70%未満	情報収集したり、表 現したりする場面 で活用している。 (A52%,B40%,C44%, D4%)				本校においては学習 ツールとしての端末 の活用が広がって いる。インターネット 検索や写真撮影・ア ナログの作成に代 表される情報収集 ツールとして、だ けでなく、整理分 析・表現などの場 面でも活用した 授業が全学年で 実施されている。	A
4 体（より よく生き る子）	①【自分の命・健康を自分で 守る】 自分の生活を振り返り、自 身の命・健康を自分で守 る力を取り組むこと ができるようになる。	「感染症や熱中症を予 防しよう」と考えて 行動している児童の 割合	＜(教・児・保アンケート) A:90%～ B:80%～ C:70%～ D:65%未満	感染症や熱中症を 予防するための行 動を自分で考えて いる。【担任】 A61.9%,B38.1%, D0%			熱中症予防については、 児童が自分の命を 守る力を取り組む ことができるように している。【担任】 A61.9%,B38.1%, D0%	A	「感染症や熱中症を 予防しよう」と考 えて行動している 児童の割合を増や していく。【担任】 A61.9%,B38.1%, D0%
	②【目標を持って運動に取 り組む】 運動の楽しさや喜びを味わ い、考えたり工夫したりし ながら、運動の課題を解 決する体育科の授業を 行う。	「体育科の授業は楽し い」と感じる児童の割合	＜(教・児・保アンケート) A:90%～ B:80%～ C:70%～ D:65%未満	児童自らが課題を 設定し、体力・技能 の向上や課題解決 ができるような体 育科の授業を行っ ている。【担任】 A20%,B60%,C20%			体力テストをデジタル 化したことで、児童 が自分の体力・技能 の向上や課題解決 ができるような体 育科の授業を行っ ている。【担任】 A20%,B60%,C20%	B	「体育科の授業は 楽しい」と感じる 児童の割合を増や していく。【担任】 A20%,B60%,C20%
	③【PTAや学校運営協議会 との連携】 PTAや学校運営協議会と 連携を高め、保護者や地 域の力を生かした教育 活動を充実させる。	＜(保・教アンケート) A: +評価90%～ B:80%～ C:70%～ D:70%未満	読書ボランティアの 読み聞かせ・学習サ ポート等、学校は、地 域や保護者の力を 生かして教育活動 を行っている。 (A84%,B16%)				読書ボランティアの 読み聞かせ、計 画学習や家庭学習 のサポート等、地 域や保護者の力 を生かして教育活 動を行っている。 (A84%,B16%)	A	読書ボランティアの 読み聞かせ・学習 サポート等、学校 は、地域や保護 者の力を生かして 教育活動を行っ ている。【担任】 A84%,B16%
5 家庭・地 域との連 携協働	①【開かれた学校づくり】 家庭や地域に学校教育活 動の様子を発信し、信頼さ れる学校づくりを進 める。	＜(保・教アンケート) A: +評価90%～ B:80%～ C:70%～ D:70%未満	学校は、紙でのお便 りの他、ホームページ やドコモ、クロ ームブックを使っ て、学校のことを保 護者に伝えている。 (A40%,B56%,C26%, D11%)				見守り隊の方へ配布 した下校時刻に児童 が知らない児童が 多かった。【担任】 A40%,B56%,C26%, D11%	B	見守り隊の方へ配 布した下校時刻に 児童が知らない 児童が多かった。 【担任】A40%, B56%,C26%,D11%
	②【開かれた学校づくり】 家庭や地域に学校教育活 動の様子を発信し、信頼さ れる学校づくりを進 める。	＜(保・教アンケート) A: +評価90%～ B:80%～ C:70%～ D:70%未満	学校は、紙でのお便 りの他、ホームページ やドコモ、クロ ームブックを使っ て、学校のことを保 護者に伝えている。 (A40%,B56%,C26%, D11%)				見守り隊の方へ配布 した下校時刻に児童 が知らない児童が 多かった。【担任】 A40%,B56%,C26%, D11%	B	見守り隊の方へ配 布した下校時刻に 児童が知らない 児童が多かった。 【担任】A40%, B56%,C26%,D11%
	③【開かれた学校づくり】 家庭や地域に学校教育活 動の様子を発信し、信頼さ れる学校づくりを進 める。	＜(保・教アンケート) A: +評価90%～ B:80%～ C:70%～ D:70%未満	学校は、紙でのお便 りの他、ホームページ やドコモ、クロ ームブックを使っ て、学校のことを保 護者に伝えている。 (A40%,B56%,C26%, D11%)				見守り隊の方へ配布 した下校時刻に児童 が知らない児童が 多かった。【担任】 A40%,B56%,C26%, D11%	B	見守り隊の方へ配 布した下校時刻に 児童が知らない 児童が多かった。 【担任】A40%, B56%,C26%,D11%

学校運営協議会からの意見

チャットでの共有は有効だと感じた。チャットで共有できない支援員さん等へも共有できることを先生の仕事は多岐にわたるので、実際の残業時間を減らすのは難しいのではないかと。

児童に接続詞等を使って話す表現力、以前より伸びていると評価されている。学校の併用がよいと思う。ICTが先生方の働き方や児童の学習理解に活用されることを願う。

指導の際、人と比べると、プラス面もあればマイナス面もあることに気づいてほしい。挨拶は、大人の自分たちが率先してすることが大事である。

熱中症対策のため、体操服の対応は、今後継続してほしい。家庭の事情等で増分タスクが増えたり、児童がいたる配慮を、体育科の授業は「競うもの」と「楽しむもの」のバランスを大事にしてほしい。

ボランティア募集の方法は、浜市にCSデレクター中心に行ってもらって、最近では防犯面から、ホームページに下校時刻等を載せない傾向にあるが、年間行事予定がホームページでわかることや地域の人にはありがたいと思う。